

## 65周年記念山行 丹沢大縦走その3

(記録) 福澤 卓三

期間

平成26年6月27日(金)～29日(日)

参加メンバー

山本 彰、福澤 卓三、鈴木 輝明、河本 嘉照

コースタイム

6月27日 渋沢駅～中川温泉大滝橋(横山先輩の車) 23:00 (着) 幕  
営仮眠

6月28日 大滝橋 3:30(発)～一軒屋避難小屋 5:00(着)～畦ヶ丸 7:00  
(着)～城ヶ尾峠 9:00(着)～菰釣山 11:00(着)～油沢ノ頭  
12:40(着)～高指山:15:35(着)～明神山 17:30(着) 歩行時間 14:00

6月29日 明神山 4:05(発)～三国山 5:00(着)～湯船山 6:55(着)  
～世附峠 8:45(着)～不老山 9:30(着)～山市場 11:50(着)  
歩行時間 7:55

### 6月27日

小田急渋沢駅に着くと横山さんと鈴木が待っていた。横山さんは今夜のビバーク場所まで運んでくれるのだ。かなり長い距離なので本当に助かる。河本と山本も22時の間合わせに間に合って、駅のコンビニで今夜のビールを買って出発。1時間弱で今夜のビバーク地点である大滝橋についた。夜も更けて遅い時間になったので、林道にははいらず、道路わきに幕を張ってビールを飲んで23時すぎに仮眠した。

### 6月28日

午前2時半起床、お茶を沸かして、各自持参した朝食をとり、天幕を撤収して3時45分にキャップライトをつけて林道をつめていく。林道から沢筋に入って行くのだが、人があまり入っていない割には道が整備されて

いる。いったん沢から離れる頃にはキャップライトも不要になり、1ピッチ半で一軒避難小屋についた



**一軒避難小屋**



**畦ヶ丸避難小屋**

きれいに整備されている小屋の中で小休止して、少し行くと登りになる。前回の畦ヶ丸からの下山ルートが急峻のイメージが強いため、今回のルートがなだらかに感じられる。ちりはじめのシロヤシオを見ながら、一軒避難小屋から2ピッチほどで畦ヶ丸に到着。

前回は疲れて畦ヶ丸についたのだが、今回は比較的楽なルートであった。

ここからモロクボの頭までは、前回と同じルートでここから分かれて、菰釣山をめざす。城ヶ尾峠の看板が菰釣山まで3.8km、高指山まで11.2kmと教えてくれる。



**城ヶ尾峠**



**菰釣山**



### 菰釣山

途中で雨が降ってきて雨具を着る。記念山行の前の山行はアップダウンが急でスタミナと精神的にダメージをうけたが、今回は高度差がなく助かる。途中で自衛隊の訓練をしている隊員7～8名にあった。顔に墨を塗った人、無線機を持った人、鉄砲を持った人。全員精悍な顔をしている。こんな雨の日に、こんなところにいるのは、自衛隊と横須賀山岳会だけである。頑張ってくださいと挨拶をして菰釣山の小屋に入った。どこの小屋もきれいに整理されてゴミもなく清潔で明るい良い小屋である。ここからも小さな上り下り、なだらかな稜線があるきながら、途中たくさんの標識を見ながら、何時に着くのか計算しながら歩いて行くが、なかなか高指山につかない。前回はシロヤシオや山桜が満開できれいであったが、今回は雨上がりの緑がきれいである。15時半にようやく高指山に着き記念写真。



### 高指山



### 高指山

これから鉄砲木の頭(明神山)にむかうのだが多少のアップダウンは平気に

なっていたし、高指山より低いので気楽に歩いていたが、この頃からみんな疲労がでてきて最後に長い坂が見え、頑張って登るのだが、なかなか頂上に着かない。やっとの思いで頂上だと思ったがそこではなく、がっくりしながら2～3回だまされ最後のひとふんばりで鉄砲ノ頭（明神山）に到着。なんと広くてよい頂上である。雨が降っていなければ山中湖、正面には富士山がでっかく見えるはずである。本日の幕営は少し下った三国峠だが時間的にもあまりかわらないし、あまりにもよいところなので、本日はここに幕営することとした。

## 6月29日

昨夜は疲れもあり皆熟睡、やはり夏の山行とは思えない午前2時半起きである。それでも、疲れが少しとれたのか、全員めざましく起床。朝食は今回も山本のつくるうどんである。生うどんは重いけど味付けも良く、薬味も香辛料もしっかりついていて食欲もでる。お茶を飲んで、雨の中の天幕の撤収だが、寒くないのでそれほどつらくない。雨の中記念写真を撮ってキャップライトをつけて、とりあえず三国峠・三国山をめざして出発。（雨でなければ富士山や山中湖が大迫力で見えるはずである。）



雨の中明神山の天幕撤収



明神山から出発

きれいな草原の中を下っていくと林道に出る。ここが三国峠である。まっすぐ横切ってなだらかな山道を登って行くと三国山にでる。下っていくとまた林道にでる。トラバズぎみに行くと明神峠である。そこから登っていくと、もうひとつの明神山があるが、縦走路の中にポツンとあり、気がつ

かず通り越してしまいそうなピークである。このころから雨も上がり青空がところどころ見えてきた。湯船山には1ピッチ程でつき、不老山までは高低差もなくたたらと進んでいくのだが途中から縦走路というより里山の中を歩いているような、のどかな良い道で、今どこにいるのか忘れさせてくれるような良いところである。峰坂峠をすぎ、ようやく世附（よづく）峠に到着。



世附峠



世附峠

最後のピークである不老山にあと1ピッチである。いろいろ絵や説明がかいてある親切な看板はおもしろい。最後の気合を入れて1ピッチで頂上に着いた時はみんな満足感で笑顔がこぼれている。



不老山



不老山

記念撮影をして、下りになるが、どの山もそうであるが、早くつきたいのと、疲れから長く感じる。河本もこんなに長く歩いたことはなく、膝に来たが頑張って歩いている。沢の音が聞こえ、沢が見えてもなかなかつかない。山市場に着いたときはくほつとした。バスの待ち時間が長いのでタクシーを呼んで山北の温泉で軽く打ち上げをした。